

平成 26 年度事業報告書（26.4.1～27.3.31）

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じての国際間の相互理解の推進及び我が国文化の発展のため、下記の事業を行いました。

石洞美術館では、公益社団法人日本工芸会と共催で、公募展である「第 43 回伝統工芸日本金工展」を開催しました。また、日本で初めて造られた磁器の一群を展示した「山武能一コレクション 初期伊万里展」、日本の柿右衛門様式の磁器を写したマイセン作品を中心に展示した「土屋コレクション 華麗なる色彩の共演 マイセン展 Part III」を開催しました。

助成事業では、海外調査の研究助成を中心に 7 件の助成をしました。

また、31 回目となる淡水翁賞では 4 名を表彰しました。

II. 事業毎の概要

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

① 展覧会

- ・平成 26 年 1 月 11 日より 4 月 6 日まで「館蔵仏教美術展 仏教の来た道」展開催。
開館日数 74 日、来館者 1,267 名、1 日平均 17.1 名
(内平成 26 年度 開館日数 6 日、来館者 187 名、1 日平均 31.2 名)
- ・平成 26 年 5 月 3 日より 6 月 15 日まで「第 43 回伝統工芸 日本金工展」開催。
開館日数 39 日、来館者 2,396 名、1 日平均 61.4 名
- ・平成 26 年 7 月 12 日より 12 月 14 日まで「山武能一コレクション 初期伊万里展」開催。
開館日数 128 日、来館者 2,462 名、1 日平均 19.2 名
図録発行 1,000 部
- ・平成 27 年 1 月 10 日より「土屋コレクション 華麗なる色彩の共演 マイセン展 Part III」展開催。会期は 4 月 5 日まで。
(1 月 10 日より 3 月 15 日まで「小山富士夫 一陶芸と書一 展」、同時開催
3 月 17 日より 4 月 5 日まで「第 31 回淡水翁賞受賞者作品展」、同時開催)
3 月 31 日までの開館日数 69 日、来館者 2,242 名、1 日平均 32.5 名

② 広報活動

- ・「ぐるっとパス 2013」に参加
- ・朝日新聞夕刊、東京新聞朝刊等に「マイセン展 Part III」の広告掲載。

③ 資料の収集

・資料の購入

《陶磁器》古染付 7 件（向付 2 件 10 点、鉢 3 件、皿 2 件）、天啓赤絵皿 1 件、
琉球陶器 7 件（瓶 5 件、碗 1 件、按瓶 1 件）、パナリ焼火入 1 件、
濱田庄司作品 3 件（碗 2 件、按瓶 1 件）

《金工品》鉄四方銚子（古染付替蓋） 1 件

《漆器》琉球漆器白密陀絵盆 1 件 5 点

《佐藤千壽旧蔵品》漆器 10 件 40 点、陶磁器 23 件 28 点、ガラス器 4 件、玉器 1 件、
金工品 1 件 2 点、インド細密画 3 件、染織 1 件、拓本 2 件、短冊 10 件、
油絵 1 件、周澄作品 22 件、その他絵画 5 件

以上 104 件を購入

④ 博物館館務実習受入

- ・筑波大学 1 名、青山学院大学 1 名

⑤ 美術館等の連携

- ・一般財団法人今日庵茶道資料館主催「第 7 回茶道文化検定」合格者の石洞美術館
入館料優待（平成 27 年 1 月 1 日～12 月 31 日）
- ・J R 東日本「えきぼ」（ウォークラリー）のコースに登録
- ・グーグル・アートプロジェクトに参加

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

- ① 米国ハーバード大学（東アジア言語文化学科）に対し当財団と土屋文化振興財団の双方で \$ 5,000 ずつの助成を行いました。
- ② 石井美恵（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター客員研究員） 「アルメニア正教会エチミアジン大聖堂付属博物館の染織文化財の調査と保存」（研究助成）
- ③ 長久智子（愛知県陶磁美術館学芸員） 「スウェーデン近代工芸デザイン運動と日本近代工芸デザイン運動の交差 — 1950 年代の陶芸、セラミック・デザインを中心に」（研究助成）

- ④ 大多和弥生（鶴見大学大学院博士後期課程） 「北欧に存在する漆工芸品の調査報告」
（研究助成）
- ⑤ 相原健作（アイハラ鍛金スタジオ代表・女子美術大学非常勤講師） 「粒金技法の科学的解明と復元実験」 （研究助成）
- ⑥ 一般社団法人全日本刀匠会事業部（理事 坪内哲也） 「手打鑪製作技術研究会」
（研究会等開催助成）
- ⑦ アジア漆工芸学術支援事業実行委員会（宇都宮大学准教授 松島さくら子） 「アジア漆工芸学術支援事業 —ミャンマー バガンにおける漆文化交流」 （研究会等開催助成）

以上 7 件、助成総額 ￥ 3,683,850

（2）淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

第 31 回淡水翁賞については、所定期日までに 9 名の応募があり、選考委員会の議を経て、最優秀賞に糸賀英恵氏、祝迫芳郎氏、優秀賞に長谷川克義氏、荒川朋子氏が選出され、平成 27 年 3 月 19 日に授賞式を挙行了しました。

賞金総額 ￥ 1,000,000

附属明細書について

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

平成 27 年 5 月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金